

「高校生の音楽1」(令和4年度用～)
p.122 《きらきら星》の旋律で
音楽をつくろう

「カトカトーン」の活用例や
オススメ情報をお届けします!

カトカトーン 通信

vol. 4

教育芸術社



《きらきら星》の旋律で音楽をつくろう

(変奏や編曲に挑戦しよう)

変奏編

STEP1

ktk ファイルを開く

カトカトーンを開き、
【ファイルを開く】を選ぶ。



ktk ファイルを
選択して開く
hs1_hensou.ktk



課題制作のために事前に設定された
ktk ファイルはこの二次元コードから
ダウンロードできる。事前に生徒
に配布しておくとうよい。

STEP2

変奏の打ち込みを練習し、変奏テクニックを習得しよう

変奏のヒント「高校生の音楽1」p.123を参考に、まずは実践的に変奏を理解する。

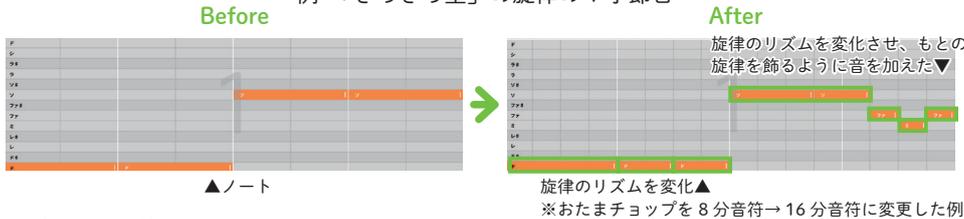
練習1：もとの旋律のリズムを変化させる

練習2：もとの旋律を飾るように音を加える

練習3：長調を短調に変える(伴奏をハ長調からイ短調に変えてみる)

練習4：拍子を変える

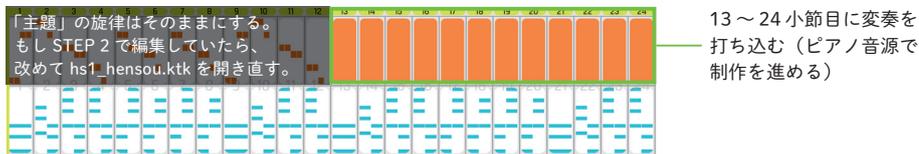
STEP 1 で用意されたノートを変化させ変奏している様子
例：「きらきら星」の旋律の1小節目



STEP3

一人一人がイメージをもって、もとの旋律を変奏させて、グループ内で創作した曲を共有する

自身の ktk ファイル内で STEP 1 の旋律をもとに 12 小節目の変奏を創作する。



STEP4

変奏曲の構成を考えよう

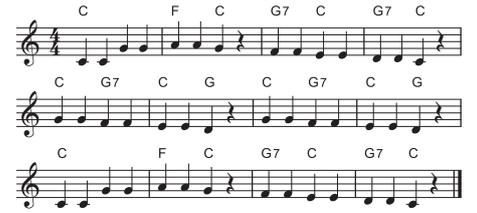
グループ内で変奏を持ち寄り、それらをつなげて変奏曲をつくる。



- 構成が決まったら、代表者の ktk ファイルに[主題]~[変奏]を打ち込み集約する(手動)。
- 最後にコーダ(終わりの部分)を話し合っ制作し、全体構成を完成させる。
- 中間発表を行いながら、手直しを行い創意工夫して変奏曲の完成を目指す。
- 打ち込みが完了したら、【ファイル】ボタン→「曲を書き出す」の「楽譜」ボタンを選択して譜面化する。

きらきら星

フランス民謡



SUPPORT : 操作上の補足説明
POINT : 指導上のポイント

SUPPORT

おたまチョップの設定を変更させることで副次的な旋律の変奏ができる。また[ルール]ボタン内の拍子の変更や、音の移動ボタンの機能を適宜伝えるとよい。

POINT

- カトカトーンの活用によって、即興的に音を出しながらイメージを膨らませることが容易にできる。打ち込みによる作曲は創意工夫の活動を促すことができ、その過程で音楽が形づくられていく要素の働きに対してより深い学びに繋がっていくことが重要である。
- 主題と自身の作成した変奏を聴き比べることができるため、創作の実感を得ることができる。

POINT

それぞれ持ち寄った変奏に各自の表現意図があり、それらを結集して一つの作品を仕上げるとい、他者と協働しながら変奏曲を仕上げる過程は、対話的な学びに繋がる。

SUPPORT

- 変奏をデータに集約する際は、学習支援ソフトウェア等を活用し ktk ファイルを共有しながら進める方法もある。
- 変奏ごとにテンポを変えることもできる(ルールトラックを活用する)。

POINT

記譜の技能習得のために、完成形を譜面化し楽譜として創作物を捉えることも重要である。

STEP1

ktk ファイルを開く



「hs1_henkyoku.ktk」というファイルを開く

※操作方法は左ページを参照

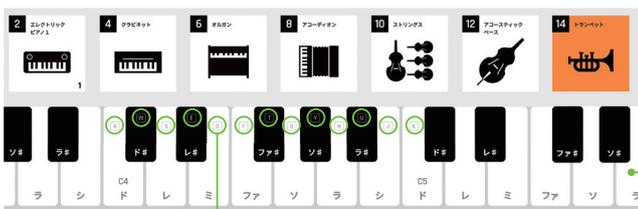
STEP2

グループを組み、パートの分担と創作イメージを話し合い、楽器を決める

- 3人組のグループを組み、パートの分担を決める。
- 完成イメージを話し合い、そのイメージに合う楽器をそれぞれのパートで決める。
下図のようにバーチャルキーボード機能を活用すると、楽器検討時に有効である。

※「高校生の音楽1」p.158の「楽器の音域」の図表も参考にして、楽器の音域の特徴を理解しながら選択するとよい。

▼楽器選択画面(バーチャルキーボード機能)



それぞれをクリックまたはタップしても発音する

例：端末上のキーボード [D] を押すとくみ(図でいう E4)の音が鳴る

※ [Z] [X] を押すとオクターブの変更が可能

STEP3

一人一人がイメージをもって編曲を行い、グループ内で創作したパートの音を共有する

自身の ktk ファイル内で、STEP 1 のデータから 12 小節分の編曲を創作する。



「旋律」はトラック 1 に打ち込む

「和音」はトラック 2 に打ち込む

「低音」はトラック 3 に打ち込む

パート毎のやり方(※複数人で一つのパートを創作してもよい)

【旋律】 創作イメージに合致した楽器の選択と音域を決定する。

(他のパートの創作状況を汲み取りながら決める)

【和音】 もとの旋律を聴きながら伴奏のリズムや構成音の配置、演奏方法、コードのアレンジ等を工夫する。(構成音の配置は「高校生の音楽1」p.154 参照)

【低音】 もとの旋律を聴きながら低音のリズムや楽器を決める。(「高校生の音楽1」p.156の「コードネームとダイアグラム」と、p.155の「最低音(ベース)を指示する方法」を参照)

完成したらグループ内でそれぞれのパートを発表し合い、表現意図を共有し合う。

STEP4

アンサンブルを完成させる

- グループ内でパートを持ち寄り、代表者の ktk ファイルに打ち込みを集約する(手動)。
- 中間発表を行いながら、手直しを行い器楽アンサンブルの編曲の完成を目指す。
- 打ち込みが完了したら、【ファイル】ボタン→「曲を書き出す」の「楽譜」ボタンを選択して譜面化する。

SUPPORT

グループを組んだ際にパート数を増やす必要があれば、[パレット] ボタンから最大8パートまで増やすことができる。柔軟に設定を変更して対応できる。

POINT

瞬時に音色を確認できるので、音の特徴を捉えながら、イメージに合う楽器を選択することができる。その際に、楽器の本来発音することができる音域について並行して学ぶことで、創作活動を通じた深い学びに繋がられる。

POINT

対話の生まれる創作活動が行えるように、リズムやコードネーム、演奏方法、楽器の特徴等、創作する上で必要となる知識を理解しておく必要がある。その知識をもって、各自の役割を自覚しつつ、他のパートと対話しながら創作イメージに向けて表現活動を行っていくことで、知識と技能を身につけた学びを習得することができる。

SUPPORT

各パートの打ち込みを集約する際は、学習支援ソフトウェア等を活用し、ktk ファイルを共有しながら打ち込みを進める方法もある。

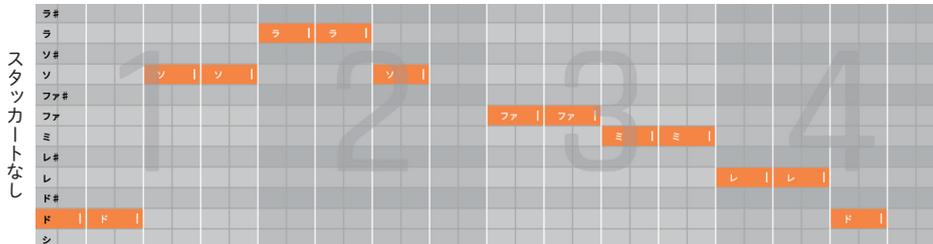
POINT

編成の形態や楽器の奏法の特徴を生かした編曲になっているか、また他のパートと調和が取れているか再生して確認するだけに限らず、譜面化し分析していくことで深い学びに繋がる。

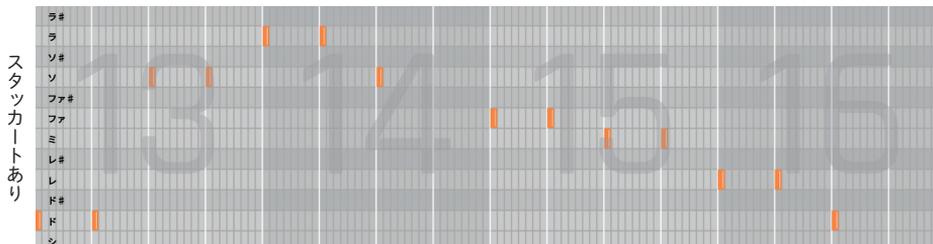
Q. スタッカートはどのように打ち込むのですか？

A. カトカトーンにスタッカートの機能はありません。
打ち込み方を工夫してスタッカートを実現しましょう。

《きらきら星》を題材とした打ち込み例



▲おたまチョップ 8分音符



▲おたまチョップ 32分音符

スタッカートをかけたい音の音価をできるだけ短く打ち込むことで、スタッカートの発音を表現することができる。実際に打ち込みを試して聴いてみよう。
※打ち込み上での対応のため、譜面化した際にスタッカートの指示は反映されていないことに注意。

操作方法

ktk ファイルの保存の仕方

①【ファイルボタン】



②タイトルを入力する



③【ファイル】を選択して保存する

ファイルは、端末のダウンロードフォルダ等に保存される（ブラウザの設定で異なる）。

カトカトーン4つのポイント

- WEBブラウザを通じて無料で使用できる
- 簡単な操作で打ち込みができる
- 100種類以上の音を選べる
- つくった音楽を共有できる



本編でつくられたファイル
(変奏編)



本編でつくられたファイル
(編曲編)

本資料の二次元コードからアクセスできるデータは、以下の URL からご覧いただけます。

<https://www.kyogei.co.jp/katokatone/info/>

「カトカトーン」の詳細は右のウェブサイトをご参照ください。



2024年9月発行

株式会社 教育芸術社

〒171-0051

東京都豊島区長崎1丁目12番14号

Tel : 03-3957-1175 (代)

Fax : 03-3957-1174

